



第78回日本臨床眼科学会総会
ランチョンセミナー12

構造と機能 をつなぐ 緑内障診療 への貢献

2024.11.14(thu)
12:40-13:40

ザ・プリンス京都宝ヶ池
B2F ゴールドルーム
第12会場



座長のことば

近年、各種の構造 / 機能の検査機器の進歩に伴い、緑内障の早期診断の精度は向上してきています。本セミナーでは3人のエキスパートの先生より、OCT(Maestro2/Triton)と両眼開放型の視野計アイモ vifa による構造と機能における緑内障診療に関する最新知見をお話して頂きます。高橋先生には、眼疾患の早期発見に向けた東北大学が仙台で実施した眼科検診の結果をご講演して頂きます。西田先生には、TEMPO (米国での機種名 = 日本での機種名アイモ) と HFA の比較結果についてお話頂き、また、最近注目されている Retinal Nerve Fiber Layer Optical Texture Analysis (ROTA) を適用し、視野情報を加味した活用についてご講演して頂きます。野本先生には、アイモに実装されている検査アルゴリズムの信頼性について、実臨床における有用性についてご講演して頂きます。本セミナーがご参加の先生方の明日からの日常診療の一助となれば幸いです。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

座長

中野 匡 先生
東京慈恵会医科大学



高橋 直樹 先生
東北大学

Maestro2 と imo vifa
による緑内障検診



西田 崇 先生
カリフォルニア大学サンディエゴ校眼科

imo vifa と HFA の比較、
構造機能を評価する



野本 裕貴 先生
近畿大学

imo vifa:
測定点と測定プログラム